

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	伊藤正人	所属	大阪市立大学大学院文学研究科
研究集会等名称	行動数理研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 20名 (うち認定心理士 0名) 非会員 4名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>第18回行動数理研究会報告</p> <p>第18回行動数理研究会は、2010年9月23日に大阪滋慶学園合同校舎にて開催された。講演者は、長島愛 (慶応義塾大学)、北野翔子 (大阪市立大学)、田島裕之 (尚絅学院大学) の3名であった。</p> <p>講演タイトルは、「選択行動における文脈の効果：Paradoxical choice」(長島)、「価値割引からみた衝動性と利己性：ゲーム場面における協力選択との関係」(北野)、「低頻度大強化子への選好と無強化子への選好」(田島)であり、ヒトや動物の選択行動を中心とした内容であった。</p> <p>長島の報告では、「埋没費用効果」がヒト以外の動物にも観察されるか否かが、ハトを対象に検討された。先行研究では、埋没費用効果を示唆する現象である試行内対比現象が見られたが、本研究では再現されなかった。今後の展開として、ヒトの心理学において観察された現象を動物で検討する場合に、手続きをどのように変換可能であるかが議論された。</p> <p>北野の報告では、遅延割引 (待ち時間による報酬の主観的価値の低下) とゲーム場面における協力選択との関係が、ハトを対象に検討された。自己制御選択場面と囚人のジレンマ状況との構造的類似性に基づき、遅延割引率と協力選択の間には負の相関関係が見られることが予測されたが、そのような関係は見られなかった。結果に基づき、遅延割引率によって表される「衝動性」と、ゲーム場面での選択によって表される「利己性」との関連が議論された。</p> <p>田島の報告では、選択する毎に、大強化までの必要選択回数が増加する手続きを用いて、低頻度大強化子への選好がヒトを対象に検討された。その結果、テスト場面において、訓練とは異なる選択場面において低頻度大強化子への選好が確認された。強化までの「無強化」が条件性強化子である可能性が議論された。</p> <p>各講演の後には、研究内容をさらに掘り下げる活発な議論が行われ、講演者だけでなく、他の参加者にとっても有意義な研究集会であった。参加者は24名であり、盛況であった。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>		